

鋼橋梁の床版上で作業中に熱中症で倒れ死亡

— 急に暑さ到来、熱中症予防策を再点検しよう —

- ☆ 平成20年8月6日午後4時45分ころ、登米市の橋梁建設工事現場で、とび・土工（男・33歳）が熱中症にかかり、付近の病院に入院しましたが、翌7日朝、死亡しました。
- ☆ この橋は国の発注で新設されているもので、全国展開の橋梁業者が元請けで施工していました。
事故当時は鋼構造の床版が完成していました。
- ☆ 被災者はとび・土工の2次下請け所属ですが、当日の朝から3名で足場解体と材料片付け作業に従事していました。3時には一服をとり再び作業を続けましたが、上記時刻になり急に具合が悪くなったものです。一緒に働いていた同僚が気づき、すぐに付近の病院へ入院させましたが、翌朝容態が急変し、死亡したものです。
- ☆ 発生した日の気温は、現場に近い米山町のデータでは31度となっています。
発生箇所は鋼板が露出していましたのでさらに高温の環境であったと推測されます。

● これで宮城県内建設業における本年の死亡災害は4名となりました。

- ★ 熱中症の予防対策はすでにご承知のことと思いますので、この速報では省略しますが、現場ではもとより店社においても、再度、緊急に確認をしてください。
- ★ 本件災害で得た情報をもとに、留意点を補足しますので参考としてください。
 - ・ 休憩や一服は絶対に日陰でとらせること。現場責任者はそれを確認すること。
 - ・ 飲料水等の予防対策グッズは会社で準備すること。労働者にまかせるときは、責任者が現場持込まで確認すること。

岩手・宮城内陸地震の被災者については、当局において業務上外調査中であり、現時点では計上されていません。上記の「死亡災害4名」はこれを含んでいません。